令和８年８月２５日

会員各位

第７４回全国博物館大会
大会委員長　山梨　絵美子

第７４回全国博物館大会のご案内

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より博物館の運営、活動にご尽力されておりますことに敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、今年で７４回目を数える全国博物館大会は、公益財団法人日本博物館協会の主催、岩手県博物館等連絡協議会の共催のもと、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会の後援を得て、令和８年１１月１８日（水）から２０日（金）までの３日間、岩手県民会館を主会場として、「地域の未来と博物館～東日本大震災津波発生から１５年を経て～」をメインテーマに開催いたします。

東日本大震災の発生以降、被災した博物館や文化遺産を救うため、これまでに日本全国の博物館や関係機関が連携し協働してきました。その経験は、その後の全国規模でのネットワーク強化や文化財レスキューの体制整備へとつながっています。その一方、被災地をはじめとした多くの地域では、少子高齢化による人口の減少傾向が続く中で、社会課題の解決や地域社会への貢献のため、博物館の在り方について見直し、博物館そのものの新しい役割を見出していくことが求められています。

今大会では、これまでの文化財レスキューの在り方を振り返り、東日本大震災以降、新たに発生した能登半島地震や熊本地震などの災害や、これからの災害への対応について皆様と議論し、さらには、地域の文化を支え、その未来を創るため、博物館には何ができるかを考えていきたいと思います。

大会実行委員会の皆様のご協力の下に、ご参加いただく皆様にとって実り多き大会となるよう努めてまいります。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。

敬具

＜開催要項＞

主　　催　　公益財団法人日本博物館協会
共　　催　　岩手県博物館等連絡協議会
後　　援　　文化庁、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会
特別協力　　公益財団法人岩手県文化振興事業団
会　　期　　令和８年１１月１８日（水）から１１月２０日（金）　３日間
参加対象者　・日本博物館協会加盟の維持会員、賛助会員
　　・岩手県内の博物館関係者
　　・その他日本博物館協会が参加を認めた者
会　　場　【主　会　場】岩手県民会館　中ホール
　　住所：〒020-0023 岩手県盛岡市内丸１３－1
　【分科会会場】岩手県民会館　中ホール
　　住所：同上
　　岩手県公会堂　２６号室
　　住所：〒020-0023 岩手県盛岡市内丸１１－2
　　プラザおでって　おでってホール
　　住所：〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 1－1－１０
　【企業展示会会場】岩手県民会館　中ホール近隣の特設会場

交通案内



・岩手県民会館
　盛岡駅から徒歩 ３０分、タクシー１５分、バス１５分
　　※「県庁・市役所前」バス停から徒歩２分。
　　※いわて花巻空港から盛岡駅まで、特急バスが出ています(約４５分)。

・岩手県公会堂 および プラザおでって
　岩手県民会館から徒歩１０分以内。

＜日　程＞

第１日目：１１月１８日（水）

会場：　岩手県民会館 中ホール

時　間	プログラム
11:00～12:00	表彰式・記念撮影：博物館功労者・永年勤続者１号表彰 ※関係者のみ
12:00～13:00	受付
13:00～14:15	開会式 挨　拶：山梨絵美子（日本博物館協会会長） 祝　辞：文化庁次長、岩手県知事、盛岡市長 表彰式：棚橋賞、博物館活動奨励賞、日本博物館協会賞
14:20～15:00	基調講演「地域文化を支える文化財レスキューの未来像(仮題)」 講師：神庭信幸（元・東京国立博物館 文化財部保存修復課長） ※東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会で岩手県の文化財レスキューを担当。実際の事業を主導されたご経験から、博物館・文化財の復興が地域の未来にどのような役割を果たせるのかについてご講演いただきます。
15:10～15:25	文化庁からの行政報告
15:30～16:50	全国博物館フォーラム 「大規模災害からの復興と博物館」 講師：小谷竜介 （文化財防災センター 文化財防災統括リーダー） 講師：奥村弘 （兵庫県立歴史博物館 館長・神戸大学 名誉教授） 講師：石田知子（岩手県文化振興事業団 理事長） 司会：半田昌之（日本博物館協会 専務理事） ※阪神・淡路大震災以降の日本における大規模災害時の文化財レスキューの流れを辿りつつ、東日本大震災を契機に、災害時の文化財レスキュー、復旧や博物館の防災対策に関する体制が整備されつつある現状を確認し、地域の復興と未来のために博物館が果たすべき役割について協議します。
17:00～18:20	展示会出展企業プレゼンテーション
19:00～	情報交換会　　会場：エスポワールいわて

第２日目：１１月１９日（木）

会場：岩手県民会館 中ホール

岩手県公会堂 ２６号室

プラザおでって おでってホール

時　間	プログラム
9:30～12:00	分科会１「地域の文化遺産の活用と博物館 ～災害遺構やジオパークを含めて～」 分科会２「文化財防災の現在地 ～博物館資料から民間所在資料まで～」 分科会３「大震災の経験を継承し、未来に生かす」 ※各分科会の詳細は次頁をご参照ください。
12:00～13:30	昼食/休憩 ※企業展示会にぜひお立寄りください。 （１２：００～１３：００予定 決議起草委員会）
13:30～14:00	早池峰神楽 上演
14:10～16:10	シンポジウム 「地域の未来と博物館～東日本大震災津波発生から１５年を経て～」 （分科会の総括） ※各分科会の議論を総括し、パネリストと共に大会テーマに沿った議論を行います。
16:20～16:35	全体会議
16:35～	閉会式

第３日目：１１月２０日（金）

エクスカーション

◆Ａ　盛岡周遊コース・・・日帰り／定員４０名　※参加費 ３,３００円（昼食代）

◆Ｂ　県　南コース・・・日帰り／定員４０名　※参加費 ３,３００円（昼食代）

◆Ｃ　沿　岸コース・・・1泊2日／定員４０名　※参加費 ２０,０００円（昼食・宿泊代）

※申し込み先着順です。各コースの詳細は６～１５頁をご参照ください。

＜分科会詳細＞

分科会１

「地域の文化遺産の活用と博物館～災害遺構やジオパークを含めて～」

内容：今後、人口が減少していく地域社会の未来のために、博物館等の社会教育機関はどのような役割を果たせるのか。被災地の復興に地域の博物館はどのように貢献しているのか。地域の魅力の源である文化や自然、災害遺構を含めた「地域の文化遺産」の継承と活用に焦点を当て、まちづくりや災害伝承の視点も取り入れつつ、事例紹介と議論を行います。

コーディネーター：村田匠（大船渡市立博物館　係長）

報告①「地域資源の底知れない魅力で稼ぐ企業ミュージアムへ」

講師：新田久男（久慈琥珀博物館　館長）

報告②「地域資源を引き出す『オープン・フィールド・ミュージアム釜石』構想」

講師：河東英宜（株式会社かまいしＤＭＣ　代表取締役）

報告③「天明三年浅間災害の語り継ぎと館の取り組み」

講師：関俊明（嬬恋郷土資料館　館長）

ほか

分科会２

「文化財防災の現在地～博物館資料から民間所在資料まで～」

内容：阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験を経て、各地域で博物館や文化遺産の防災体制に関する議論が進展し、全国的なネットワーク形成や災害対応の仕組みづくりが始まっています。一方、各地の文化財レスキューの現場では、様々な課題が見えてきていることも事実です。これらの課題を共有するとともに、今後の災害対応や文化遺産の被災を防ぐ仕組みについて議論します。

コーディネーター：目時和哉（岩手県立博物館　専門学芸調査員）

報告①「ふるさとのたからを守るために－陸前高田市における文化財レスキュー－」

講師：熊谷賢（陸前高田市立博物館　副主幹兼主任学芸員）

報告②「令和６年能登半島地震により被災した文化財への対応」

講師：中島志保（文化財防災センター　主任研究員）

報告③「災害発生『前』の文化遺産防災－文化遺産防災マップの構築と活用－」

講師：蝦名裕一（東北大学　災害科学国際研究所　准教授）

ワークショップ「文化財防災マップを用いた災害時想定訓練」

分科会３

「大震災の経験を継承し、未来に生かす」

内容：東日本大震災の被災地ではこの 15 年間、災害の経験を記録にとどめ、地域の未来のために生かそうとする活動が数多く行われてきました。災害関連資料を積極的に収集し、展示や教育活動に活用することによって教訓を継承しようとする施設も各地にあり、公営施設のほか、地域住民による私設の展示空間も造られています。こうした活動に関する様々な議論や実践例を紹介し、今後の在り方や可能性について考えます。

コーディネーター：鈴木まほろ（岩手県立博物館 主幹兼資料課長補佐）

報告①「口承に代わる災害記録×記憶展示の意義について」

講師：山内宏泰（リアス・アーク美術館 館長）

報告②「震災遺産と博物館活動 －福島県立博物館の実践から－」

講師：筑波匡介（福島県立博物館 主任学芸員）

報告③「多視点性と継承：福島『オルタナ伝承館』の可能性」

講師：除本理史（大阪公立大学大学院 経営学研究科 教授）

報告④「『震災遺構』という余白から考える」

講師：坂口奈央（岩手大学 地域防災研究センター 准教授）

＜エクスカーションコースの詳細＞

※各コースの到着時間は予定になります。あくまで目安ですので、帰りの交通手段の時間には余裕をもって設定いただくようにお願いします。

【企画コンセプト】
博物館関係者を対象とした特別な旅!!専門的な解説を聞きながら､「地域の未来と博物館」をテーマに、歴史、文化、震災の記憶、文化財を守る現場をめぐります。

★普段は訪れることのできない場所を、学芸員の解説とともに巡ります。
★各施設入館料は不要です。
★Ａコースは地域資源と博物館を考えられるツアーです。
★Ｂコースは地域の個性を体現する博物館と災害遺構をめぐります。
★Ｃコースは特に今回だけの１泊２日の特別ツアーです。なかでも、生出収蔵施設は必見です。文化財の安定化処理の拠点施設で、普段は見ることのできない現場を見学できます。三陸鉄道「震災学習列車」にも乗車します。乗車料金も、今回は参加者の追加負担なしで乗車できます。

◆Ａ 盛岡周遊コース（貸切バス大型１台、昼食付き）

	８:００　盛岡駅西口バス乗り場（駐車場）	８:１０⇒
⇒	８:４０　岩手県立博物館	９:４０⇒
⇒	１０:１０　岩手県立美術館駐車場	１０:１５⇒(徒歩)
⇒	１０:１５　盛岡市中央公園内・もりとぴあねっと（※） 各館自由見学①（４５分）	１１:００⇒(徒歩)
⇒	１１:１５　コアタイム①（解説あり・選択制） 盛岡市先人記念館　または 東北ターボこども科学館(盛岡市子ども科学館)	１１:４５⇒ （徒歩・バス）
⇒	１２:００　昼食（ぴょんぴょん舎のお弁当＋福田パン）	１２:４５⇒ （徒歩・バス）
⇒	１３:００　コアタイム②（解説あり・選択制） 盛岡市遺跡の学び館 または 原敬記念館 ※バス巡回運行	１３:３０⇒ （徒歩・バス）
⇒	１３:３０　盛岡市中央公園内・もりとぴあねっと（※） 各館自由見学②（６０分） ※バス移動も可 （原敬記念館や志波城古代公園を巡回予定）	１４:３０⇒(バス)
⇒	１４:４５　中の橋観光バス待機所	１４:４５⇒(徒歩)
⇒	１４:５０　史跡盛岡城跡（４０分） 石垣修復工事と史跡整備について	１５:３０⇒(徒歩)

まち・ひと・博物館ガイドツアー（７５分）
⇒ １５:４５ もりおか歴史文化館とエコミュージアム 「歩いて楽しむまち盛岡」 １７:００⇒(徒歩)
※班に分かれて街歩きガイドツアー

⇒ １７:１０ 上の橋観光バス駐車場 １７:１０⇒

⇒ １７:３０ 盛岡駅西口バス乗り場 （駐車場） 解散

＊１８:５０【東京方面】はやぶさ３８号 盛岡駅⇒東 京 駅（２０:５８）
＊１８:３７【新青森方面】はやぶさ３３号 盛岡駅⇒新青森駅（１９:３７）

※盛岡市中央公園を中心とした「もりとぴあねっと」（盛岡市ゆいとぴあミュージアムネットワーク）博物館群と地域･民間の連携、Park-PFI を見学します。
岩手県立美術館･原敬記念館･東北ターボこども科学館･盛岡市先人記念館･盛岡市遺跡の学び館･志波城古代公園
※コアタイムには学芸員の解説あり。どちらかの施設に各自集合してください。
※コアタイム時間内も、各館や中央公園園内等の自由見学も可能です。
※コアタイムの各施設間の移動は各々徒歩５分程度です。コアタイム②の原敬記念館と、自由見学②志波城古代公園はバス移動（５～１０分）となります。
※まち・ひと・博物館ガイドツアーは、班ごとにガイド付きで街歩きをします。
※寒さが予想されますので防寒着等のご準備をお願いいたします。

◆Ｂ 県南コース（貸切バス大型１台、昼食付き）

８:００ 盛岡駅西口バス乗り場（駐車場） ８:１０⇒(バス)
⇒ ９:３５ 一関市博物館 １０:２０⇒(バス)
⇒ １０:４０ 骨寺村荘園遺跡 １１:１０⇒(バス)
⇒ １１:２５ 祭畤被災地展望の丘 １１:４５⇒(バス)
⇒ １２:３０ 昼食（和風れすとらん牛の里） １３:３０⇒(バス)
⇒ １３:４０ 奥州市牛の博物館 １４:１５⇒(バス)
⇒ １４:５５ えさし郷土文化館 １５:３０⇒(バス)

※途中下車可能
・１５：５０頃 水沢江刺駅 ・１６：５０頃 花巻空港

⇒ １７:５０ 盛岡駅西口バス乗り場 （駐車場） 解散

＊１８:５０【東京方面】はやぶさ３８号 盛岡駅⇒東 京 駅（２０:５８）
＊１８:３７【新青森方面】はやぶさ３３号 盛岡駅⇒新青森駅（１９:３７）

◆C 沿岸コース（貸切バス大型１台、１泊２日・昼食・宿泊朝食付き）

●１１月２０日（金）

８:００	盛岡駅西口バス乗り場（駐車場）	８:１０⇒(バス)
⇒ １０:１０	陸前高田市立博物館	１１:１０⇒(バス)
⇒ １１:２０	東日本大震災津波伝承館	１２:３０⇒(徒歩)
⇒ １２:４０	昼食（ワタミオーガニックランド）	１３:４０⇒(バス)
⇒ １３:５０	道の駅高田松原・奇跡の一本松	１４:４０⇒(バス)
⇒ １５:１０	生出収蔵施設（旧生出小学校）	１６:００⇒(バス)
⇒ １６:５０	ホテル（ホテルルートイン大船渡 シングル・1泊朝食付き）	

●１１月２１日（土）

	ホテル発	８:４５⇒(バス)
⇒ ９:００	大船渡市立博物館	９:４５⇒(バス)
⇒ １１:００	鯨と海の科学館	１１:３０⇒(バス)
⇒ １１:４０	昼食（道の駅やまだおいすた）	１２:２５⇒(バス)
⇒ １３:０５	三陸鉄道乗車（震災学習列車）	１４:５０⇒(バス)

※途中下車可能

・１６:１０頃 花巻空港

⇒ １７:００ 盛岡駅西口バス乗り場 （駐車場） 解散

＊１７:５０【東 京 方 面】はやぶさ３４号 盛岡駅⇒東 京 駅（20:０４）
＊１７:３７【新函館北斗方面】はやぶさ３１号 盛岡駅⇒新函館北斗駅（１９:４４）

≪見学施設の紹介≫

◆A 盛岡周遊コース

６つの博物館施設による「もりとぴあねっと」連携事例や、市街地の街歩きをとおして、「地域の未来と博物館」を考えます。２０２３年、盛岡はニューヨーク・タイムズ紙の「今年行くべき５２カ所」で、個性豊かな街並みなどが評価されました。その景観や生業、伝承、暮らしを「展示資料」と捉え、地域を博物館活動に生かすことを考えます。岩手県立博物館では、被災資料修復現場を見学します。

岩手県立博物館

県制１００年を記念して開館した総合博物館。地質・考古・歴史・民俗・生物の資料をとおして、5億年にわたる大地や多様な生物、縄文・平泉などの歴史、地域の豊かな民俗文化を紹介します。東日本大震災被災資料の修復・保存処理にも取り組み、文化復興の拠点として重要な役割を担っています。

もりとぴあねっと（盛岡ゆいとぴあミュージアムネットワーク）

岩手県立美術館・原敬記念館・東北ターボこども科学館・盛岡市先人記念館・志波城古代公園・盛岡市遺跡の学び館の６施設の共同事業。新しいまちづくりが進められた盛南開発地区（愛称：ゆいとぴあ盛南）の北端に位置する盛岡市中央公園内と近隣の博物館施設が手をつなぎ、各々の特色を生かし共同で博物館に親しむきっかけ作りや地域活性化に取り組んでいます。

盛岡市中央公園

駅西口再開発と盛南開発地区の結節点に位置する市の都市公園。盛岡駅から雫石川を渡りシンボルの築山トンネルをくぐると新しい街が目の前に広がります。園内には４つの博物館施設が立地し、Park-PFI による活性化や、様々なイベント開催がされています。

岩手県立美術館

萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武ら、岩手の美術家たちの作品群を中心としたコレクションのほか、国内外の多彩なアートを紹介する県営美術館。 幅広い年齢層を対象とした参加体験型プログラムなども充実し、のびやかな建物も人気の一つです。

原敬（はらけい）記念館

大正時代に平民宰相として民主政治確立に尽力した原敬の生家と庭園に隣接した市営人物館。愛用品や４６年間書き続けた県指定･原敬日記、暗殺時の衣服などを展示し功績を紹介します。原敬生家･庭園･倉ほか。

盛岡市先人記念館

旧五千円札の新渡戸稲造、第３７代総理大臣の米内光政、言語学者の金田一京助をはじめ、近代日本を支えた盛岡ゆかりの先人 130 人を紹介する市営人物博物館。先人の人間形成の過程とともに、多くの人材を輩出した近代盛岡を広く紹介します。

東北ターボこども科学館（盛岡市子ども科学館）

「子どもたちに科学する心を！」を使命とする市営科学館。楽しくさわって学ぶ体感型展示は、科学や技術の面白さにふれることができる。プラネタリウムでは美しい星空や映像を楽しめます。サイエンスショーやワークショップも充実。

盛岡市遺跡の学び館

市直営考古博物館･埋蔵文化財センター。膨大な出土資料を収蔵し、復元された縄文時代の遺跡発掘現場で体験的に考古学にふれられます。縄文時代中期の県史跡大館町遺跡出土の日本最大級の縄文土器は必見。

国指定史跡志波城跡・志波城古代公園

１，２００年前の平安時代、桓武天皇の命を受け坂上田村麻呂が造営した古代陸奥国最北最大の城柵志波城を、調査成果から復元整備した市条例設置歴史公園。高さ約１２ｍの外郭南門と築地塀、政庁官衙域、出土資料や映像で学べる案内所など。指定管理者は地域住民等の任意団体。

歩いて楽しむまち盛岡　～まち・ひと・博物館ガイドツアー

戦火を逃れた盛岡の中心市街地には、まちづくりの礎となった盛岡城跡を中心に、岩手山や姫神山の眺め、北上川・中津川、近世の商家や町家、近代建築、レトロな喫茶店が点在します。市民が大切にしてきた景観や暮らしの情景は、エコミュージアムの構成資産として、地域の誇りや観光資源となっています。

街歩きでは以下に挙げたもの以外にも、街中のさまざまな資産をめぐります。

史跡盛岡城跡・盛岡城跡公園（岩手公園）

１５９７年、初代盛岡藩主・南部信直が築城し、北上川と中津川の合流点の丘陵に石垣を構築し曲輪が配されています。１９０６年に岩手公園として開園、２００６年に盛岡城跡公園の愛称がつけられました。多様な積み方の花崗岩の石垣は「石垣のデパート」とも称され、城跡の価値を伝えます。現在も保存整備が進められています。

もりおか歴史文化館

建築家の菊竹清訓設計、舟越保武作の棟飾りを掲げ１９６８年に開館した旧岩手県立図書館を増改築した市営施設。盛岡城跡と城下町･中心市街地を大きな博物館と見立てた観光･交流拠点として、開かれたミュージアムづくりに努めています。南部家伝来資料など近世近代盛岡の資料を収集保存公開。

岩手銀行赤レンガ館･重要文化財岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館

東京駅を設計した辰野･葛西建築設計事務所（葛西萬司は盛岡出身）による、１９１１年落成の赤煉瓦造りの建物。赤煉瓦の壁面に白い花崗岩の帯を巡らせ、ドーム部分の屋根はスレート葺きです。

中津川橋梁　青銅擬宝珠（上の橋･国重要美術品､県指定文化財､下の橋･県指定文化財）

約 400 年前、南部信直は中津川に橋を架け、城下整備のため中津川に三橋を架け、街道を整備しました。１６０９年に上の橋、１６１１年に中の橋、１６１２年に下の橋を架け、上の橋と中の橋には青銅製の擬宝珠を設置しました。擬宝珠には慶長年間の銘文が刻まれています。洪水で流失する度に回収・鋳直され、現在まで伝えられています。

景観重要建造物　茣蓙九と紺屋町番屋

「茣蓙九」は１８１６年創業とされる荒物雑貨店で、幕末・明治期の商家の佇まいを今に伝えます。店舗や商家、土蔵など、現在も家業や飲食店に利用されています。「紺屋町番屋」は１８９１年に建てられ、１９１３年に改築された木造２階建ての消防番屋です。六角形の望楼が特徴的な洋風建築で、現在は交流･体験施設として活用されています。両者とも街のランドマークです。

◆Ｂ　県南コース

奥羽山地と北上高地に挟まれた北上川流域に発展した地域です。平泉では奥州藤原氏のもと浄土思想に基づく都市が栄え、江戸時代には仙台藩・一関藩の領地

として舟運や街道交通で賑わいました。一方、水害の常襲地として治水・減災対策も進められてきました。仙台藩の影響を受けた文化が根付き、鹿踊りや南部神楽などの伝統芸能が受け継がれています。

一関市博物館（一関市厳美町）

一関の歴史・文化を総合的に学べる常設展示では、縄文・弥生から現代までの歩みを紹介する「一関のあゆみ」をはじめ、「舞草刀と刀剣」「玄沢と蘭学」「文彦と言海」「一関と和算」の５テーマを展示しています。さらに、平泉を支えた骨寺村荘園や、近代彫刻の先駆者・長沼守敬など、一関ゆかりの人物や文化についても紹介しています。

骨寺村荘園交流館（一関市厳美町）

一関市厳美町本寺地区の国指定史跡「骨寺村荘園遺跡」は、平安時代末期から室町時代初期まで約３００年間、平泉中尊寺の経蔵別当領として営まれていました。鎌倉時代の絵図に描かれた景観が現在もほぼ残り、「一関本寺の農村景観」として重要文化的景観に選定されています。施設では映像や展示で歴史と価値を紹介し、地域住民との交流や地場産品の販売も行っています。

祭畤被災地　展望の丘（一関市厳美町）

岩手・宮城内陸地震は、２００８年６月１４日に発生したマグニチュード７．２の地震で、最大震度６強を記録しました。災害遺構の「祭畤大橋」は１９７８年に完成した全長９４ｍの鋼製橋でしたが、地震による地滑りで橋脚が崩壊し、橋全体が折れ曲がりました。

牛の博物館（奥州市前沢）

「牛と人との共存を探り、生命・自然・人間を知る」をテーマとする牛専門の博物館です。「牛の生物学」「牛と人とのかかわり」「前沢牛と郷土」の３つの展示室で、牛と人間の関係を過去・現在・未来の視点から紹介します。専門講座や市民参加型の生物標本づくりなども行っています。

えさし郷土文化館（奥州市江刺）

江刺地方の歴史・文化や地域産業、受け継がれてきた信仰・伝統を紹介する施設です。農業紹介ホールでは、農業の歴史をパネルや模型で解説し、奥の院では藤里兜跋毘沙門天立像の複製や百体余りの中善観音を展示しています。体験棟では、そば打ち、さき織り、陶芸などを体験でき、地域文化を学びながら交流を楽しめます。

◆C 沿岸コース

震災復興の現在と三陸の豊かな自然や歴史を、詳しい解説とともにめぐります。生出収蔵施設は文化財の安定化処理の拠点施設で、普段は見ることのできない現場を見学します。三陸鉄道「震災学習列車」に乗車し、美しい景色を楽しみ、復

興について学びます。

陸前高田市立博物館（陸前高田市高田町）

陸前高田市の自然・歴史・文化を学べる地域に根ざした総合博物館。東日本大震災の津波から救出・修復された資料が展示の約９割を占め、日本最大のツチクジラのはく製「つっちぃ」や国指定重要有形民俗文化財の漁撈用具が並び、地域の「たからもの」と記憶を未来へつないでいます。

東日本大震災津波伝承館（陸前高田市気仙町）

高田松原津波復興祈念公園内にあり、被災した実物の車両や映像などをとおして、津波の脅威と復興の歩みをリアルに伝えています。「命を守り、海と生きる」をテーマに、防災の知恵を未来へ繋ぐ、震災学習では外せない深く心に刻まれるスポットです。

奇跡の一本松（陸前高田市高田町）

かつて高田松原にあった約７万本の松林の中で、東日本大震災の津波に耐えて唯一生き残った松です。震災から約１年後に枯死が確認されましたが、復興のシンボルとして後世に受け継ぐために保存整備を行い、現在は「モニュメント」として、当時と同じ場所に立っています。

生出収蔵施設（旧生出小学校）（陸前高田市矢作町）

処理前の資料を保存する冷凍庫、処理済みの資料を管理する収蔵庫などがあり、修復技術を学ぶ講義を行える施設としても活用しています。今後は資料の安定化処理を行うとともに、見学の受け入れ、保存・修復技術を伝える場としての利活用を目指しています。

大船渡市立博物館（大船渡市末崎町）

「大船渡　その海と大地」を総合テーマとして、シアターにて常設展示のあらましを紹介。「地質展示室」にて、４億２０００万年前からの大船渡を紹介し、考古・民俗資料や津波の映像・写真パネルを紹介しています。「たいけんコーナー」では、展示品をスケッチしたり、展示品に触れたりすることができます。

鯨と海の科学館（下閉伊郡山田町）

神秘に満ちた海を多角的に紹介し、訪れる人々に海への興味を深めてもらおうという「鯨と海の科学館」。建物の上から下へとテーマごとに展示がされており、海中へと散歩するように見学できます。巨大なマッコウクジラの世界最大級の実物骨格標本展示を通して、ロマンあふれる鯨の世界を紹介しています。

三陸鉄道（震災学習列車）（宮古駅～鵜住居駅）

三陸鉄道株式会社は昭和５９年に全国初の第三セクター鉄道として開業。東日本大震災津波の記憶と教訓を繋ぐ「震災学習列車」は、三陸鉄道社員が車内で震災の状況を案内します。車内では職員が震災当時の様子や復興の様子をパネルなどで解説するほか、途中で徐行や停車をしながら被災地を列車で巡ります。

大会参加費について

大会参加費（いずれも１名につき）

会員　　６，０００円

非会員　１０，０００円

※岩手県内の博物館園につきましては、日本博物館協会の会員でなくても、会員価格にてご参加いただけます。

情報交換会について

大会を機に親睦を深め、情報を交換する場として、下記により情報交換会を開催いたします。 参加希望の方は「全国博物館大会参加申し込み」フォームよりお申込みください。

日　　時　　１１月１８日（水）１９時００分～２１時００分

会　　場　　エスポワールいわて（定員あり）

情報交換会費　　７，０００円

※１０月１７日（土）以降のキャンセルは受付けませんので、ご了承ください。

※申込多数の場合はご参加いただけない場合があります。

分科会の申込について

大会２日目午前中（９時３０分～１２時）に、岩手県民会館 中ホール、岩手県公会堂 ２６号室、プラザおでって おでってホール の３か所に分かれて分科会を行います。会場の割り振りはそれぞれの参加申込人数に応じて行います。参加希望の分科会を「全国博物館大会参加申し込み」フォームよりお申込みください。

※申し込み完了後の変更はお断りしています。

※参加申込人数により、事務局より他の分科会への変更をご相談させて頂く場合がございます。

エクスカーションの申込について

大会３日目に自由参加プログラムとして、エクスカーションを行います。参加希望のコースを「全国博物館大会参加申し込み」フォームよりお申込みください。

※１０月１７日（土）以降のキャンセルは受付けませんので、ご了承ください。

※３コースとも定員は４０名です。

※申し込み先着順です。

※参加申込人数により、事務局より他のコースへの変更をご相談させて頂く場合がございます。

大会参加費、情報交換会費、エクスカーション代のお支払いについて

大会当日、大会参加者に受付にて請求書をお渡ししますので、大会終了後にお振込みください（後払い）。当日の支払いは混乱を避けるため受け付けません。

資料交換について

資料交換ご希望の館園は、ご希望の資料を１種類４００部、１１月１０日（火）必着にて下記宛にご送付ください。

送 付 先　〒０２０-０１０２
岩手県盛岡市上田字松屋敷３４
岩手県立博物館　第７４回全国博物館大会係
電話番号　０１９-６６１-２８３１

※本件についての御問い合わせは上記電話番号ではなく、
日本博物館協会大会事務局(０３-５８３２-９１０８)までお願いいたします。
※発送伝票の品名欄には「全国博物館大会来場者用資料分」と必ず明記ください。
ご記入がないと封入されない場合がございます。

昼食・宿泊について

昼食・宿泊先については、各自で御手配ください。なお、宿泊先につきましては、ＪＴＢの宿泊予約サイトよりご予約していただくのが便利です。右のＱＲコードより、大会日程に合わせた期間にて、会場近くのホテルを検索できます。

その他

※諸事情により、プログラムに変更が生じる場合がございますのでご了承ください。
※日本博物館協会ホームページにて「全国博物館大会参加申し込み」フォームと共に本案内の更新版を公開いたしますので、そちらをご覧ください。

参加申込方法について

日本博物館協会ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォームより、１０月１６日（金）までにお申込みください。

https://www.j-muse.or.jp/participating/

【ご参考】エクスカーション集合・バス乗り場（盛岡駅西口バス乗り場）

